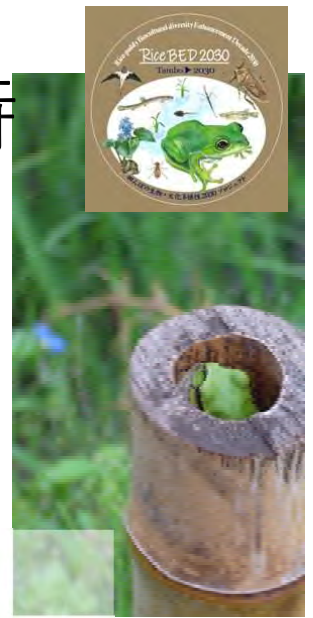
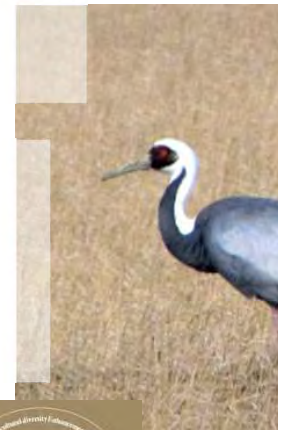
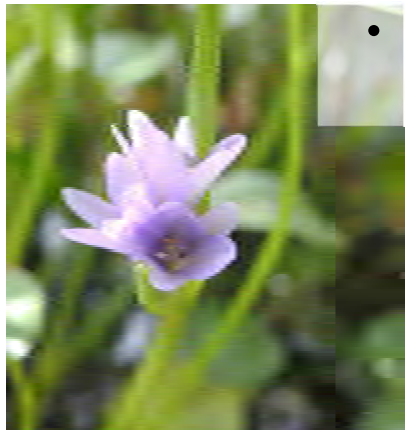


田んぼの生きものたちと歩む農業への期待



- ・ 農業の重要性
- ・ 田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト
- ・ ネイチャー・ポジティブと30by30



金井 裕

ラムサール・ネットワーク日本





農業の重要性

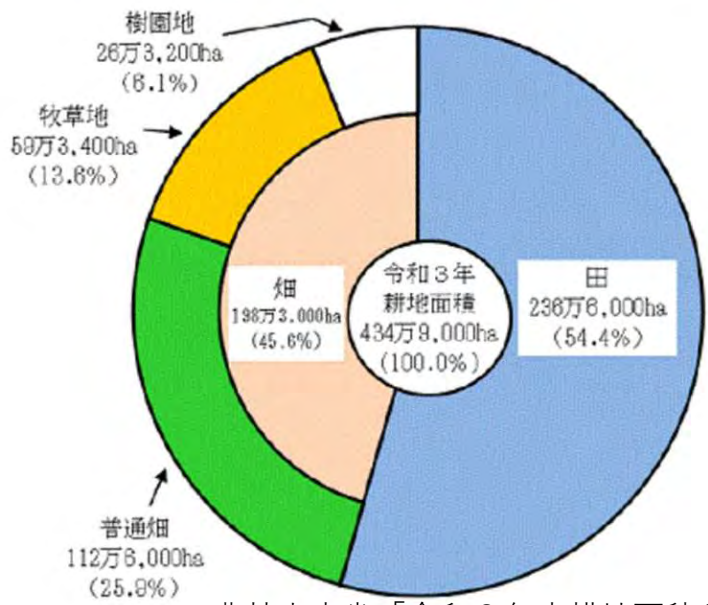
- 国土に占める割合が大きい

地形別面積

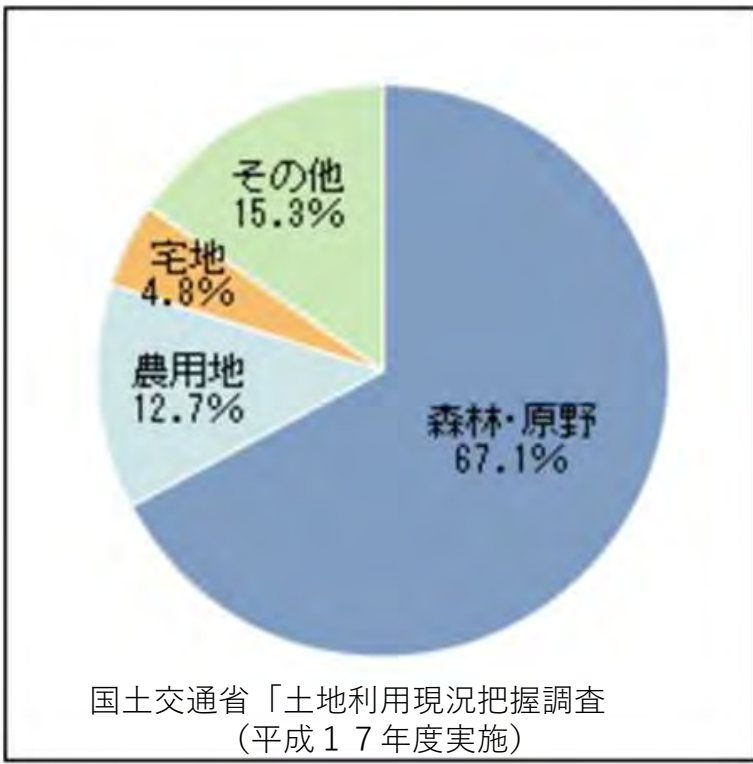
山地	きゅうりょうち 丘陵地	台地	低地	ないすいしきとう 内水域等
230,331km ²	44,337km ²	41,471km ²	51,963km ²	9,232km ²
(61.0%)	(11.8%)	(11.0%)	(13.8%)	(2.4%)

出典)平成19年11月「第57回日本統計年鑑」日本統計協会 表1-8より作成

図1 耕地種類別面積及び割合(全国)



農林水産省「令和3年度耕地面積」



国土交通省「土地利用現況把握調査 (平成17年度実施)」

農業の重要性



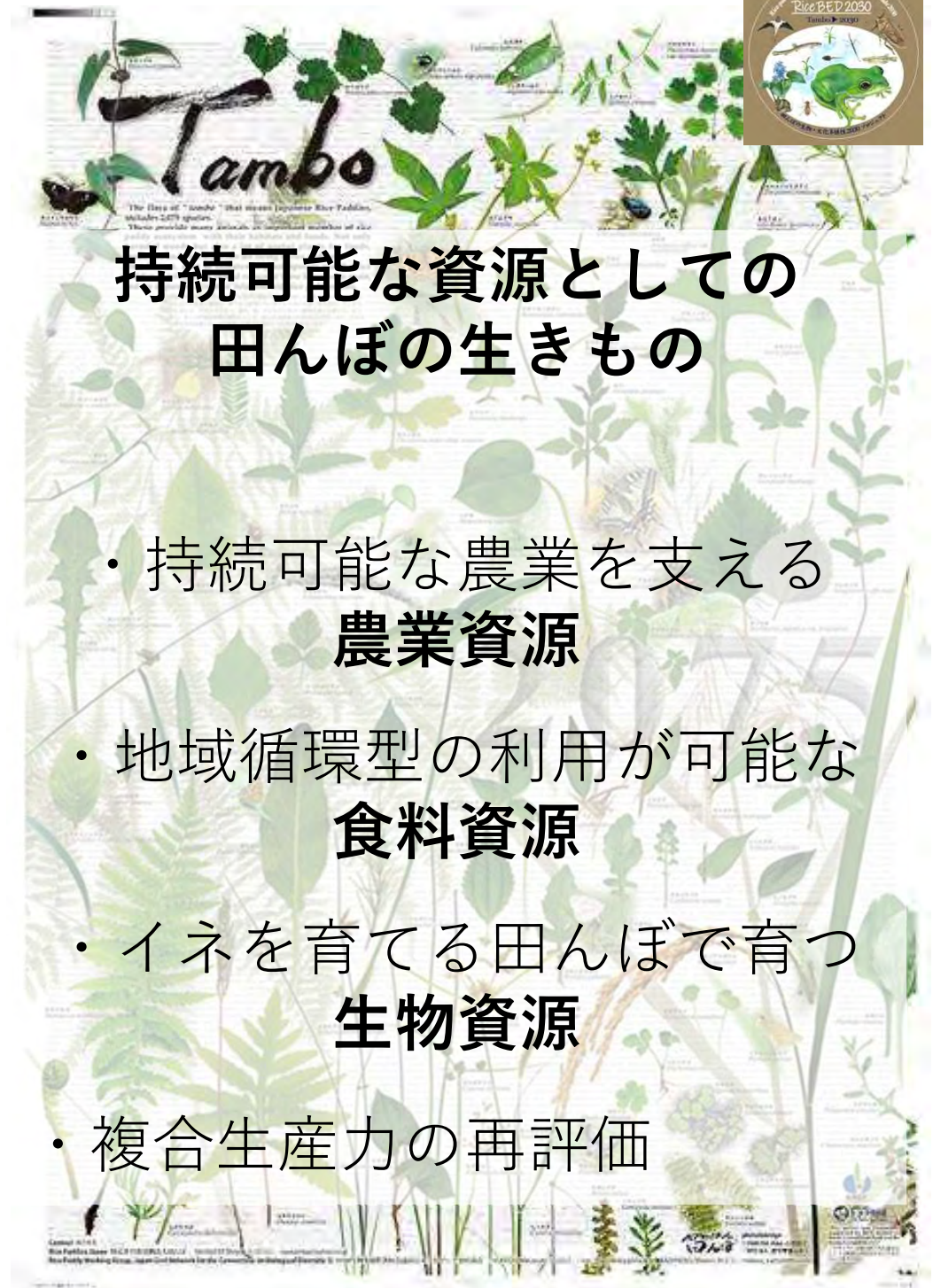
- 国土に占める割合が大きい
国土の**13%**
平地・緩斜面で、都市部を除く事実上すべて
 - 生息環境の大部分が占められる生物が多数
 - 農地開発が自然地減少の最も大きい要因
 - 水資源の利用量も多い
- 農業の場での生物多様性確保
面的な確保

田んぼは良好な農業湿地生態系



田んぼは良好な農業湿地生態系





持続可能な資源としての 田んぼの生きもの

- 持続可能な農業を支える
農業資源
- 地域循環型の利用が可能な
食料資源
- イネを育てる田んぼで育つ
生物資源
- 複合生産力の再評価



国内外での関心事

●ラムサール条約

水田決議、湿地と農業決議

国際ウェビナー 湿地と農業（2022年7月13日、14日）

Webinar: Wetlands and Agriculture

https://www.youtube.com/watch?v=UC15jgJ7_mo

<https://www.youtube.com/watch?v=1bqae0AFqG4>

●生物多様性条約

農業と生物多様性決議

里山イニシアティブ

●生態学会

日本生態学会関東地区会

公開シンポジウム「Biodiversity, Sustainable Agriculture and Health」

2022年10月4日（日）



現実で進む劣化

- ・ 農法（慣行農法、有機農法、生物多様性農法）
- ・ 構造（田面、畔、水路）
- ・ 管理（灌漑・排水、周辺草刈）

農法（exp.農薬使用農法）



構造（exp.水路のコンクリート化）



管理（exp.温室効果ガス対策中干延長）



様々な「負」の要因

田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト (田んぼ2030プロジェクト)



2030 Project on Biological/Cultural Diversity in Rice Paddies

田んぼ2030プロジェクト 新水田目標

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト成果

生物多様性条約 ポスト2020目標

持続可能な開発目標
(SDGs: Sustainable Development Goals)



参加してほしい人たち

田んぼの
生物多様性に
関心をもつ人

農家

農業関係団体

企業・団体

行政関係

教育関係

消費者

市民団体

研究者

田んぼ、お米、生きもの、農のある地域づくりに
関係するすべての人へ・・・

みんなの力で
日本の田んぼに
生きものにぎわいを
取り戻そう！

水田目標2030

田んぼの生物・文化多様性
2030プロジェクト



NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本

田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト冊子

<https://tambo10.org/plan>



水田目標	内 容
T. 1	流域の生物多様性の向上
T. 2	田んぼの生態系の回復・再生と、未来への継承
T. 3	田んぼの生物多様性を育む農業システムの管理下への組み込み
T. 4	田んぼの生きものの保全・回復
T. 5	田んぼの生きものの遺伝的多様性の保全・回復
T. 6	人と生きものとの共生
T. 7	田んぼの外来生物への対策
T. 8	稲作による汚染・環境負荷の低減
T. 9	田んぼを通じた気候変動対策
T.10	伝統的農法・水管理の再評価と田んぼの生きもの利用促進
T.11	田んぼによる災害被害の低減と回復
T.12	都市環境保全と田んぼとの連携
T.13	地域・風土に適応した品種の開発・保全
T.14	田んぼの生物多様性保全政策の実施
T.15	田んぼの生物多様性保全を推進する企業活動の発展
T.16	市民の価値観・行動の変革による生物多様性を育む農業の主流化
T.17	バイオテクノロジーによる悪影響への対処
T.18	生物多様性を育む農業に有害な補助金の削減・改善
T.19	生物多様性を育む農業支援の確保
T.20	生物多様性を育む農業への地域の伝統・知識・経験の活用
T.21	市民・NGO などの政策・施策・事業など意思決定への参加の確保
T.22	国内外の組織・機関や団体との協働の推進

A：田んぼとその周辺で生物多様性を保全する活動

田んぼの生きものを回復し増やす

田んぼの生きものと社会課題を解決する

①農産物の消費・流通

②農産業への投融資

③普及広報・教育

政策・施策

国際連携

B:Aを支え、社会を変える活動



A：田んぼとその周辺で生物多様性を保全する活動

直接の生物多様性保全：農家さん

- ・ 農法（慣行農法、有機農法、生物多様性農法）
- ・ 構造（田面、畔、水路）
- ・ 管理（灌漑・排水、周辺草刈）

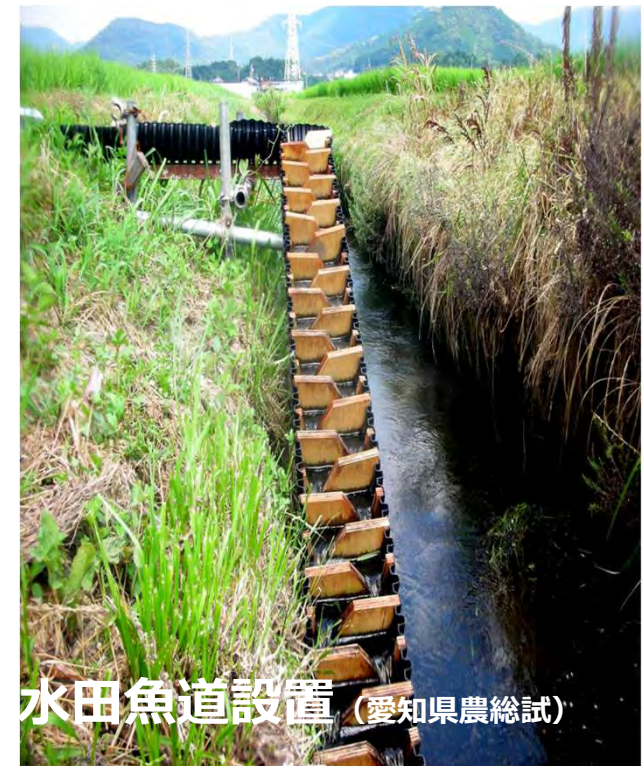


ふゆみずたんぼ（冬季湛水）



収穫後の溝で水分維持（太田川土地改良区）

「負」から「正」へ 水田目標2030：T1.-T.11



水田魚道設置（愛知県農総試）



A：田んぼとその周辺で生物多様性を保全する活動

直接の生物多様性保全：農家さん

・農法、・構造、・管理 「負」から「正」へ

①農産物の消費・流通

②農産業への投融資

③普及広報・教育

政策・施策：多面的機能支払い等

B:Aを支え、社会を変える活動（生物・文化）

水田目標2030：T12.-T.22

地域の文化



A：田んぼとその周辺で生物多様性を保全する活動

直接の生物多様性保全：農家さん

・農法、・構造、・管理 「負」から「正」へ

①農産物の消費・流通

伝統的・新しい食材
地域ブランド

②農産業への投融資

地方活動への投融資

③普及広報・教育

郷土の自然、生きものの体験、食育



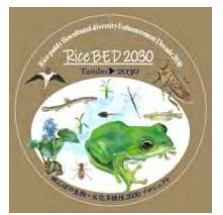
B:Aを支え、社会を変える活動

ネイチャー・ポジティブに向けて



	負を減らす	正を増やす
田んぼとその周辺		
農法	減・無農薬	生物多様性農法
構造	開発・耕地基盤整理の 低減	自然再生 代替技術開発
管理	生きものに厳しい水管 理改善	伝統的管理の見直し
消費・流通	廉価品への偏移防止	配慮産物の推進
投融资	負の事業への減資やコ ントロール	正の事業への投資
普及・教育		地域の自然・伝統 生きものとのふれあい 食育（学校給食）
政策・施策	負の事業政策の検証・ 廃止	正の事業の推進

まだ、思いつきです。



改正への期待

1. 国家・国際レベルでの生物多様性保全目標の実現
ポスト2020枠組（CBD COP15）
ラムサール条約
生物多様性国家戦略（新農林水産省生物多様性戦略）
2. 政策・施策の具体化
農地とその周辺での保全の実施支援
3. 検証・評価
PDCAサイクルの確保・フィードバック

豊かな自然とともにある農業へ